# 21　男性乳癌と女性化乳房症を比較して

埼玉県厚生連熊谷総合病院
○清水　理乃　赤坂　未波　亀山　枝里
白石　広子　角田　喜彦

## １．背景・目的

男性乳癌は全乳癌症例の１%前後であり、発症年齢も女性より10歳ほど高齢であると報告されている。また、老年期における女性化乳房症は男性乳癌との鑑別も必要となることから、当院での男性乳癌の割合および発症年齢、画像等を交えて女性化乳房症との比較を行った。

## ２．解剖

男女ともに乳管が発達している。女性は乳管と小葉から腺葉が構成され、それが集まることによって乳腺となっている。男性にはこの乳腺がなく薄い脂肪組織のみが存在している。

2-1 男性乳癌とは

乳房内にできたしこりは疼痛を伴わないとされ、脂肪が少ないことから大胸筋へ癌が浸潤しやすくなる。そのため、男性乳癌の予後は発症年齢が高齢であることと合わせ、女性乳癌より不良であると考えられていたが、現在ほとんど差がないと言われている。また、家族内で乳癌に罹患した方がいると罹患率があがるという報告もある。

2-2 女性化乳房症とは

発生頻度が0.03%と低く、男性乳癌とは異なり痛みを伴うしこりを感じ、乳腺腫瘍の組織学的分類では腫瘍様病変に分類される。相対的に男性ホルモンより女性ホルモンの分泌が優位となる思春期と老年期に発症することが多くなる。

## ３．方法

当院での過去約三年間（H24.4.1 ～ H26.8.31）における男性乳癌患者４名および女性化乳房症と診断された患者３名のマンモグラフィ（以下、MMG）の撮影を行った年齢、病悩期間、疼痛の有無、腫瘤部位、MMGにおけるカテゴリー分類、組織型、家族歴、既往歴を調べた。さらに同期間における女性乳癌に罹患した人数から男性乳癌の割合を算出した。

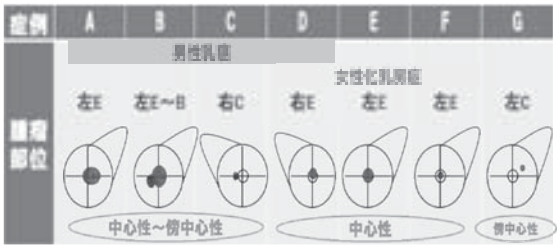
## ４．結果・考察

症例から得られた結果より、発症年齢および疼痛、腫瘤部位についてまとめたものを表1,2に示す。

表１：平均発症年齢および疼痛の有無

| | 平均発症年齢 | 疼痛 |
|---|---|---|
| 男性乳癌 | 67.8歳 | 無 |
| 女性化乳房症 | 72.8歳 | 有 |

表２：腫瘤部位




男性乳癌および女性化乳房症の平均発症年齢はそれぞれ67.8歳、72.8歳と女性乳癌の好発年齢を上回る値となった。女性化乳房症は男性乳癌好発年齢とほぼ一致することから、やはり癌との鑑別が重要になってくる。疼痛に関しては、男性乳癌は無痛、女性化乳房症では痛みを伴うという結果となった。今回、癌で痛みを生じた方は大胸筋への浸潤を伴っていたことによると考えられる。腫瘤の中心が乳頭に一致するものを中心性、一致しないものを傍中心性として考えたところ、A～Cの３名は中心性から傍中心性、D・E・Fは中心性、Gは傍中心性となった。これより、腫瘤が傍中心性にある場合、乳癌である可能性が高くなると考えられる。また女性乳癌の好発部位がC領域であることから、しこりのできる位置に男女で相違があるといえる。女性化乳房症から併発して男性乳癌を発症するという確証の有無が問われているが、今回１症例、女性化乳房症と男性乳癌の併発を認めた事からも女性化乳房症との関連が示唆される。当院における男性乳癌の割合は、女性乳癌患者数215名、男性乳癌患者数４名より1.86%と、全男性乳癌の発症割合をやや上回る値となった。この理由として、女性乳癌患者の罹患率上昇に伴って男性乳癌の罹患率も上昇してきたのではないかと予想する。しかし、症例数が少ないため、今後男性乳癌や女性化乳房症に出会った際、同様のことが言えるのか検討していく。